

子どものいのちと健康を最優先にせず、教職員に過大な負担をかける ハイブリッド授業のトップダウンに強く抗議します(抗議書)

日頃より、さいたま市の子どもたちのためにご尽力いただき、深く敬意を表します。

昨日、通知された「新学期に向けた新型コロナウイルス感染症対策の徹底及び学校の教育活動について」および学校安心メール文、教育長メッセージ「2学期の市立学校における教育活動の在り方について」に示されたさいたま市の教育施策に強く抗議します。

昨日は、さまざまな仕事がある中、各職場では大慌てでタブレットの動作環境の確認や音声や画像の解像度の機種による違いの確認および調整に悪戦苦闘でした。

今、何より優先されることは、子どものいのちと健康を守ることです。27日からスタートする準備なきハイブリッド授業は「児童生徒の学びは止めない」ことにならないばかりでなく、教職員の負担は増すばかりです。教室の人数を半分にし、登校してくる子どもたちに向ける目がゆきとどくことこそが、感染対策であり、児童生徒の学びを止めないことなのです。

【本市施策の問題点】

- 現場の声に耳を傾けない一方的なトップダウンの施策である。
- ハイブリッドによるオンライン授業は各家庭の判断による希望制のため、意図的計画的な感染対策にはなり得ない。
- ハイブリッドによるオンライン授業を行うためには、カメラやマイク等の周辺機材の設置、オンラインを想定した授業準備、保護者への説明等、検討すべき課題が山積しており、課題解決のための十分な時間が確保されていない。(教師用のタブレットが配付されていない職場もあるのが実態である。)
- 子どもの個人情報の問題として、顔や作品、掲示物等がオンライン上に挙げられること、「TEAMS」に保存してある写真や動画などに関する扱いについて何の規定も示されていない。
- タブレットおよび個人IDを家庭に持ち帰るために、扱い方や故障した場合の保障の問題など、各家庭への周知と理解がなされていない。
- どの職場にも、希望しているにもかかわらずワクチン未接種の教職員が不安を抱えている。優先接種を早急に行うことこそ必要である。
- 26日登校の児童生徒の感染対策が明確に示されていない。学校クラスターの心配がある。

【さいたま市教組の考え】

- 各学校の実情に照らした学校生活における感染対策を十分に話し合うために、夏休みを延長して準備すべきである。
- 各教室を半分に分け、1日おきの分散登校にすべきである。
- 教室の人数が20人を超える場合は感染リスクの高い給食は実施すべきでない。

以上、昨日突然に発表された通知、および教育長の家庭に向けたメッセージにつきまして、強く抗議するとともに、現場に混乱を生み、実態にそぐわないことが多い一方的な教育施策のトップダウンは二度と行っていただきたくないと思っています。

さいたま市教職員組合が提案する「さいたま市教組の考え」について早急に検討し、いのちと健康を守ることを再優先とした施策が出されるよう懇願いたします。